

農業農村整備事業等事後評価地区別結果書

局 名 東北農政局

都道府県名	青森県	関係市町村名	さんのへぐんなんぶちよう 三戸郡南部町（旧三戸郡名川 まち）
事業名	畑地帯総合整備事業	地区名	かみなくい 上名久井
事業主体名	青森県	事業完了年度	平成21年度

[事業内容]

事業目的：本地区は、青森県の南端に位置する丘陵地帯で、りんご、おうとう、うめ等の果樹生産が主であり、南部地方では屈指の生産量を誇り、その品質は市場でも高い評価を得ている。

しかしながら、本地区周辺の基幹道路は整備されているものの、受益地内の道路及び排水路が未整備なため、生産物の荷痛みや排水不良が生じるとともに、防除用水の不足によって病害虫の発生が著しく品質の低下を招いている状況となっていた。

このため、本事業により農道及び排水路を改修するとともに営農用水施設を整備し、生産物の品質向上を図り、農業経営の安定に資する。

受益面積：170ha

受益者数：276人

主要工事：農道 11.5km、排水路 2.2km、営農用水施設 1.4km

総事業費：1,669百万円

工期：平成12年度～平成21年度（計画変更：平成19年度）

関連事業：なし

[項目]

1 社会経済情勢の変化

(1) 社会情勢の変化

本地域の総人口について、平成7年と平成22年を比較すると14%減少し、青森県全体の減少率7%を上回っている。

【人口、世帯数】

区分	平成7年	平成22年	増減率
総人口	23,041人	19,853人	△14%
総世帯数	6,683戸	6,621戸	△1%

※集計は旧名川町、旧南部町、旧福地村

（出典：国勢調査）

産業別就業人口については、第1次産業の割合が平成7年の31%から平成22年の27%に減少したものの、平成22年の青森県全体の割合13%に比べて高い状況となっている。

【産業別就業人口】

区分	平成7年		平成22年		増減率
		割合		割合	
第1次産業	3,783人	31%	2,605人	27%	△31%
第2次産業	3,496人	29%	2,099人	22%	△40%
第3次産業	4,914人	40%	4,979人	51%	1%

※集計は旧南部町・旧名川町・旧福地村

（出典：国勢調査）

(2) 地域農業の動向

平成7年と平成22年を比較すると、耕地面積については4%、農家戸数は9%、農業就業人口は25%減少しているが、65歳以上の農業就業人口は6%増加している。

一方、農家1戸あたりの経営面積は10%、認定農業者数は75%増加している。

区分	平成7年	平成22年	増減率
耕地面積	4,289ha	4,120ha	△4%
農家戸数	2,043戸	1,865戸	△9%
農業就業人口	3,753人	2,804人	△25%
うち65歳以上	1,150人	1,221人	6%
戸当たり経営面積	2.0ha/戸	2.2ha/戸	10%
認定農業者数	(144人)	252人	75%

※1 集計は旧南部町・旧名川町・旧福地村

※2 認定農業者数の平成7年のデータがなかったため、平成17年のデータを使用した。

(出典：農林水産統計年報、農林業センサス、認定農業者数は南部町農林課調べ。)

2 事業により整備された施設の管理状況

整備された施設のうち、農道及び排水路は南部町が適切に管理しているほか、「上名久井地区環境保全隊」が多面的機能支払交付金を活用し、草刈り、清掃活動及び花の植栽等の環境保全活動を行っている。また、営農用水施設は上名久井防除用水組合により、適切に管理されている。

3 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

(1) 農作物の生産量の変化

事業計画に対し、大豆、にんにくは計画通りの作付となっており、事業計画に無いキャベツ、トマト、ほうれんそうの作付面積が増加している。

【作付面積】

(単位：ha)

区分	事業計画（平成19年）		評価時点 (平成26年)
	現況（平成18年）	計画	
水稻	4.4	4.4	3.8
大豆	0.1	0.8	0.8
にんにく	0.1	0.4	0.4
ねぎ	0.1	1.3	0.8
キャベツ	—	—	0.3
トマト	—	—	0.5
ほうれんそう	—	—	0.3
調整水田	2.2	—	—

(出典：事業計画書（最終計画）、南部町聞き取り)

【生産量】

(単位：t)

区分	事業計画（平成19年）		評価時点 (平成26年)
	現況（平成18年）	計画	
水稻	24.9	25.7	21.8
大豆	0.2	1.4	0.9
にんにく	1.0	4.5	4.0
ねぎ	2.7	40.0	20.3
キャベツ	—	—	9.2
トマト	—	—	18.7
ほうれんそう	—	—	2.7

(出典：事業計画書（最終計画）、青森農林水産統計年報)

【生産額】

(単位：百万円)

区分	事業計画（平成19年）		評価時点 (平成26年)
	現況（平成18年）	計画	
水稻	5.2	5.3	4.6
大豆	0.0	0.3	0.1
にんにく	1.0	4.4	4.2
ねぎ	0.8	11.2	5.1
キャベツ	—	—	0.5
トマト	—	—	5.9
ほうれんそう	—	—	1.1

(出典：事業計画書（最終計画）、青森農林水産統計年報)

(2) 営農経費の節減

本事業による排水路や営農用水施設の整備により、水田の排水性や営農用水の運搬時間が改善されたため、水稻及び各作物の営農における労働時間及び機械経費の節減が図られている。

【労働時間】

(単位：hr/ha)

区分	事業計画（平成19年）		評価時点 (平成26年)
	現況（平成18年）	計画	
水稻	590	543	543
りんご	48	31	31
おうとう	48	31	31
うめ	20	13	13

(出典：事業計画書（最終計画）、「主要作目の技術・経営指標」（青森県農林水産部H22.3）)

【機械経費】

(単位：千円/ha)

区分	事業計画（平成19年）		評価時点 (平成26年)
	現況（平成18年）	計画	
水稻	1,818	1,475	1,602
りんご	206	131	144
おうとう	237	146	160
うめ	84	52	57

(出典：事業計画書（最終計画）、「主要作目の技術・経営指標」（青森県農林水産部H22.3）)

(3) 営農に係る走行経費の節減

本事業による農道の整備により、通作や集出荷に要する時間が縮減され、農作物の生産並びに流通に係る輸送経費の節減が図られている。

【走行時間】

(単位：hr)

区分	事業計画（平成19年）		評価時点 (平成26年)
	現況（平成18年）	計画	
輸送交通	2,934	177	177
通作交通	7,969	1,489	1,489

(出典：事業計画書（最終計画）、「主要作目の技術・経営指標」（青森県農林水産部H22.3）)

4 事業効果の発現状況

(1) 事業の目的に関する事項

① 農業生産性の向上

本事業の排水路整備によって、ほ場が乾田化したことにより、水稻及びにんにくの単収が増加し、生産性の向上が図られている。

【単収】

(単位：kg/10a)

区分	事業計画（平成19年）		評価時点 (平成26年)
	現況（平成18年）	計画	
水稻	566	583	574
大豆	159	172	108
にんにく	988	1,136	1,001
ねぎ	2,674	3,075	2,538

(出典：事業計画書（最終計画）、青森農林水産統計年報)

② 農業生産の選択的拡大

本事業の排水路整備によって、ほ場が乾田化したことにより、最終事業計画時の現況と比べ、より収益性の高いトマト（平成19年：0ha→平成26年：0.5ha）の作付が拡大している。

(2) 土地改良長期計画における施策と目指す成果の確認

① 農地の大区画化・汎用化等による農業の体質強化

地区内の担い手への農地集積面積が事業計画時の21haに比べ現時点で22haに増加している。

【担い手への農地集積】

(単位：ha、%)

区分	事業計画（平成19年）		評価時点 (平成26年)
	現況（平成18年）	計画	
農地集積面積	21	21	22
農地集積率	12.4	12.4	12.9

(出典：事業計画書（最終計画）、南部町聞き取り)

(3) 事業による波及効果

本事業での生産基盤整備を契機に、観光農園（2箇所）や産地直売所（1箇所）等が新たにオープンしたほか、観光農園の規模が拡大され、農家の所得向上や営農意欲向上に寄与している。整備後の施設は、非農家を含む地域住民が主体となって、草刈りや清掃活動等の環境保全活動を実施しており、農家の維持管理費の負担軽減に繋がっている。

(4) 事後評価時点における費用対効果分析の結果

妥当投資額 2,181百万円

総事業費 2,011百万円

投資効率 1.08

(注) 投資効率方式により算定。

5 事業実施による環境の変化

(1) 生活環境

本事業により整備された農道は、農作物の集出荷や通作のみならず、地域住民の生活道路としても活用されており、生活環境の改善に寄与している。

6 今後の課題等

本事業によって整備した農道及び排水路は南部町により、営農用水施設は防除用水組合により管理されているが、農業就業人口が減少しているなか、引き続き適切に施設が管理されることが重要である。

事後評価結果

本事業によって、農道、排水路及び営農用水施設が整備されたことにより、営農経費や労働時間の軽減が図られたほか、ほ場が乾田化したことにより、収益性の高い作物が作付されている。
また、農道が整備されたことにより、地域住民の生活道路としても利用され、生活環境の向上に寄与している。

第三者の意見

本事業の実施を通じて、単収増加、収益性の高い作物の導入、労働時間短縮等、農業生産性向上の効果が確認された。
また、整備された農道は、観光農園・産地直売所の整備をもたらすとともに、生活道路としても利用され生活環境も向上している。

煙地帯総合整備事業 上名久井地区概要図

